

## 算数・数学部会

松尾 好樹

### 平成二七年度全面実施の小学校算数「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」を「少人数数学級」に変えさせよう！

東京都教育委員会は小学校算数教科において「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」の全面実施を促した。このもとで私たち算数・数学部会は現場の実態がどうなのかアンケートを実施した。その結果については改めて発表する予定であるが、ここでは習熟度別に至る経過とアンケートの取り組みについて述べ、紹介に代えたい。

#### 習熟度別指導問題についての経過

もう20年以上も前、教員の加配をともなわせたチームティーチングなるシテムが導入された。加配を魅力に多くの小中学校は導入したが、次第に現場の裁量は制限がかり、後にはすべての算数数学の時間でTTを行わなければ加配を撤退させると言い出した。そして十数年前になるが、TTは学級を解体した少人数授業でもよいとなり始めたのである。

などの設定である。例えば東京ベイシックドリルを全学年平均85%以上をめざすなどである。このような都教委の示すマニユアル(ガイドライン)に基づかないと加配の先生は来ないのである。

#### 「習熟度別指導」アンケート結果から

アンケート分析検討中であるが、自由意見では「習熟度別指導」に否定的意見が圧倒的多数である。しかし教員にも「教えやすい」「子どもが安心して発言できる」などが多かった。子どもたちは「授業が分かりやすい」「上のクラスに入れるとうれしい」が多く、保護者は「ていねいに教えてもらえる」が多かった。これらはいずれも少人数指導の優位性を表し、決して「習熟度別指導」を支持したというものではない。それは「下のクラスになると悲しい」との子どもの声が多いこと、自由意見での批判的意見の多いことが示している。

子どもたちが不安なく、楽しい学校生活を送るのびと送り、協力し助け合って勉強できるよう、「クラスを分断しない少人数数学級」を早期に実現したいものである。

(共同研究者)

そのうち少人数は習熟度別指導でなければ認めないとなった。そして行政側は違反していないか不意打ちの指導室訪問をだんだんと定着させてきたのである。そういう経過を経ながら平成二六年一月「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」なるものが小学校算数で打ち出され、二七年には中学校数学で打ち出された。

#### 「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」とはどのようなものか

各学校の加配希望の申請書「指導方法工夫改善授業計画書」によれば、①自校の学力に関する課題を学力テスト結果A～D層にどのように占めるから割り出し設定し、何学級何展開など補充的指導、発展的な指導を行うという指導方法・指導体制の設定。②算数主任を中心に推進委員会を設置するなど校内の推進体制の促進。③特に①を踏まえた数値目標